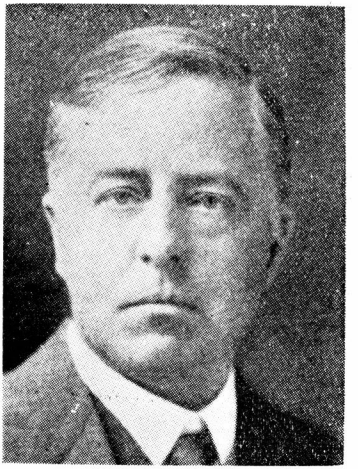
ジーンス博士とエデントン教授

英國學界の双璧



SIR J. H. JEANS

此の頃，ひとり英國のみと言はず，米國や歐洲大陸の各地から來る人士に會ふと，たれでも皆『ジーンス博士の書物を讀みましたか？』『エデントン教授の意見を如何に御考へですか？』と聞かれる．サー．オリヴー．ロヂ氏は此の二人の學者を現代の代表的偉人だと稱へてゐる．實際この二人の盛名は，日本に居てはとても分らないほど歐米に知れて居るらしい．（吾々天文關係者は此の二氏を單に天文家としての傑物だとのみ見てゐたのだが．）

ジーンス氏は理論物理學の大家として，電磁氣や力學に關する著述を以前から發表してゐたが，1915年頃からは天体の平衡論や宇宙の進化論の方面に研究を進めて，忽ちに理論天文學の大家となり，殊にラプラースやチエンバリン．モールトン等の學説を一蹴して新しい星雲説を樹立し．宇宙論に一新紀元を開くに至つた功は偉大である．昨年氏は Sir の稱號を英國王から與へられた．著書は非常に多い．家は富裕で，今まで餘り公職に就かないが，1920—20年頃は英國天文學會長となり，1920年以來はロヤル學會の幹事である．

PROF.A. S. EDDINGTON

エデントン Stanley Arthur Eddington 氏は，1882年十二月28日，英國ケンダルで生れマンチエスタ市のオーエン學院及びケンブリヂ大學のトリニチ學院に學び，1904年トリニチ學院で首席賞を獲，又1907年にはスミス賞を得，同時に同學院のフエローとなつた．

職務としては，1906年から1913年まで前後7年間，グリニチ天文臺の首席 Assistant として，實地觀測と研究とに從事し，前の臺長クリステイ，現臺長ダイソン兩博士を補けたが，1913年からは故ボール教授の後を繼いで，ケンブリヂ大學に於ける天文學のプリウム講座教授となり翌 1914 年には同大學天文臺長に任せられ，同時にローヤル學會々員に推された．

氏はグリニチ在職中には恒星の固有運動を研究し．ケンブリヂに移つてからは宇宙引力論や相對原理及び時間空間の原理等を研究し，1919年にはアフリカへ日食觀測に出張して，アインスタイン原理を始めて觀測上から立證したこともある．最近數年間は恒星の內部構造及び天体進化論を研究し，絕へず新しい物理學の進歩を宇宙研究に應用せんことを期してゐる．

重な著書は下の通り．

Stellar Movement and the Structure of the Universe (1914), Report on the Relativity of Gravitation (1918), Space, Time and Gravitation (1920), The Mathematical Theory of Relativity (1923), The Interior of the Star (1920), Stars and Atoms (1920), The Nature of the Physical World (1928).